

2021-22 六甲部部報<夏号>

～(三方よしで)みんな笑顔～

No. 2 2022年6月30日



『寄り添い、分かち合い、三方よしでみんな笑顔』～笑顔で次年度へ

2021-2022 六甲部部长 大野智恵



6月11日、岡山での西日本区大会において今期の六甲部部长報告、並びに部長引き継ぎを終えて、とても晴れやかな気持ちになりました。昨年、部長引き継ぎの場で「笑顔で次に」と願いましたが、関わってくださったたくさんの方々に支えていただき、何とか無事に最後まで務めることができました。心より感謝申し上げます。

コロナ禍において、いろいろなプログラムが中止を余儀なくされたことに関しては仕方のないことだと受けとめています。その中で、どのように工夫して最善を尽くしたかが大切で、その点においては、オンラインという有効な手段も味方にして前向きに取り組むことができたと思っています。

部長通信を毎月発行し、部内での活動を共有するようにしました。また、西日本区とのパイプ役も部長の役割と捉え、西日本区役員会の内容をお知らせし、部の意見を吸い上げるようにも努めました。六甲部ワイズメンズクラブ創立100周年記念植樹は、計画・準備を通して多くの方と関わりながら進めることができ、節目の取り組みとしては大変意義のあることだったと思います。

今、六甲部でもEMCをこれまで以上に真剣に考えていかなければならない時期に来ています。若木が育つ姿に今後の六甲部の姿を重ねて、新しい視点でこれからのワイズメンズクラブをみなさんと共に育てていけたらと切に願っています。

感謝の気持ちをもって、役割を終わらせていただきます。一年間、ありがとうございました。



六甲部 2021-2022 年度下半期の活動

<六甲部キャビネット会>

2022年1月20日(木)、2月16日(水)、3月2日(水)、4月11日(月) 計4回

(上半期12回、下半期4回、合計16回)

<第2回評議会>

3月19日(土) ZOOM 会議室にて開催(136名中、53名の議決参加)

承認議決された議案は以下の通りです。

1. 第1号議案 「2023-2024年度ワイズメンズクラブ国際協会西日本区六甲部部長を推薦する件」
2. 第2号議案 「六甲部HP使用料を六甲部会計より支払う件」
3. 第3号議案 「『JWF(西日本ワイズ基金)管理委員会規則の改正3分の2以上の賛成で議決』という議案について意見を聞きたい。」

緊急提案させていただきましたウクライナ支援、神戸YMCA支援にもご賛同いただきました。コロナ禍



において活動が難しかったために予算面で生まれた余剰金を今必要とされる場所に有効に使わせていただくことができました。

←オンラインでも繋がって
<評議会終了後に開催されたオンライン交流会で>

<デジタル小委員会>

デジタル小委員会は今期発足し、6回のネット会議を開催しました。会議ではZOOMは配信の技術的なことやハード面でのこと、そして今まで触れられることのなかったロスターのデジタル暗号化のお話など、皆様の率直なご意見を数多くお聞きすることが出来、皆様の熱いワイズダムの精神に接することが出来ました。その活動の中で具体例といたしまして六甲部HPの充実に向けたスタートラインに立つことが出来ました。まだまだ滑り出したばかりで更なる改善は必要ですが、六甲部全会員の目を少しでもデジタル化の方向へ導けたことは成果があったと思います。今期行われた「きらりと輝くアート展」のバーチャル美術館の発想へと進展したのも皆様の目がデジタルへと向いた発想の転換が導いたものと思います。御発案いただいた役員の皆様、作業して下さったYMCA職員の皆様に感謝いたします。私、大岩は来年度も引き続きデジタル小委員会の委員長を拝命いたしました。これからも引き続きデジタルの有用性について推し進めていきたいと思っております。(デジタル小委員会委員長 大岩雅典)

<六甲部ワイズメンズクラブ・YMCA パートナーシップ委員会>

委員長：進藤啓介（神戸）

書記：大野勉（神戸ポート）

I. はじめに

2019-20 年度、「六甲部新生ワイズ起こし運動特別委員会」を、さらに発展した形の「六甲部ワイズ・YMCA パートナーシップ委員会（以下：パートナーシップ委員会）」として位置付けられている。これは、ワイズの活動を継続維持、発展していくためには YMCA との協働、そして協働の上での YMCA サービス・ユース事業、地域奉仕事業に力を入れていこうというものである。

II. 今期の会合

1. 2021 年 11 月 15 日(月)

出席者：進藤啓介委員、大野勉委員、大野智恵部長、若林成幸次期部長

井上真二総主事、松森正樹主事、松田道子主事

- (1) 神戸 YMCA 報告（井上総主事）
財政面での課題が上がった。
- (2) 六甲部部長報告（大野智恵部長）
コロナ禍であっても工夫して活動を継続している。活動が縮小され抑制された支出分を神戸 YMCA への寄付額を多くしている。メンバー数の増減はなし。
- (3) 六甲部と YMCA の活動について
・資料「日本 YMCA 中期計画（2021-2023）4. パートナーシップ」に基づいて井上総主事から説明があった。
パートナーの重要性が認識され、広まってきている。
- (4) YMCA とワイズの協働プログラム
今期は、チャリティーランが開催できた。ピンクシャツデーも YMCA を共に、またワイズの W4W(ウィーク 4 ウェイスト)の活動を広めることができた。
この 2 つのプログラムの中で、ワイズメンズクラブ国際協会 100 周年記念の植樹が実施できたことは意義深いことであった。

2. 2022 年 2 月 8 日(火)

出席者：進藤啓介委員、大野勉委員、大野智恵部長、若林成幸次期部長

井上真二総主事、松森正樹主事、松田道子主事

- (1) 神戸 YMCA からワイズへの支援依頼
資料「ワイズ六甲部への支援依頼案について」また、資料「神戸キリスト教青年会会則別規定③」、「委員一覧」について説明がなされ、意見交換を行った。その中で、ワイズと神戸 YMCA の活動における支援とはどのようなものか、整理がなされた。
例 A：神戸 YMCA からワイズへの支援依頼（支援金等）
例 B：神戸 YMCA が実施するプログラムへの参加・協力（人的参加・協力等）
例 C：ワイズと神戸 YMCA が協働で行う活動。（チャリティーラン、YYY フォーラム、ピンクシャツデー等）
- (2) 委員会の継続
パートナーシップ委員会は、今後も年に 2 回以上の会合を持つことで継続していく。

III. おわりに

2023 年 2 月 4 日・5 日に開かれるワイズ東西日本区交流会を成功させましょう。

<ロスター (HANDBOOK & MEMBERSHIP ROSTER) リサイクル活動>

会員の個人情報保護のため、並びに再生紙としてリサイクルすることでSDGs 実践（環境事業）につながっているので、地域奉仕・環境事業として取り組みました。各クラブでのロスター管理状況を調査し、回収してリサイクル業者（印刷元(株)洛陽）への送料を支援しました。

=各クラブの回収状況（報告内容）=

宝塚クラブ：実施済み

神戸学園都市クラブ：実施済み

神戸ポートクラブ：回収済み

神戸クラブ：2月例会時に回収

<“Week 4 Waste (清掃活動)” + “ピンクシャツデー” + “記念植樹”>



YMCA から公園までの道もきれいに！



こんなにたくさん
ゴミがあったなんて！



きれいになった生田川公園で記念植樹



記念プレート



2月第4水曜日「ピンクシャツデー」に合わせ、Yサ・ユース事業と地域奉仕・環境事業の共同事業として実施し、ワイズメンズクラブ国際協会創立100周年を祝う六甲部2回目の記念植樹を行いました。コロナ禍で、無理のない参加の呼びかけをさせていただきましたが、寒い日であったにもかかわらず、たくさんの方が参加してくださり、感染対策に気を配りながら予定通りのイベントが実施できました。

午前10時に神戸YMCA三宮会館に集合し、はじめの集いを行った後、32名の参加者はピンクの色のものを身につけて、神戸YMCA三宮会館から3つのコースに分かれてゴミ拾いしながら生田川公園内の植樹場所まで歩きました。観光地でもともと多くのゴミはない地域だと思いましたが、1時間弱の間に、空き缶やペットボトル、吸い殻等のゴミが4袋分集まりました。

記念植樹は、参加者が見守る中、代表者が土入れを行い、クラブごとの記念写真の後、全体でも記念写真を撮影し、六甲部発展への願いを共有しました。桜の名所に、ワイズメンズクラブの桜の木が加わり、地域貢献にも寄与できることを喜びたいと思います。新神戸駅前広場・生田川公園は再整備が検討されています。



しあわせの村、生田川公園に続き神戸 YMCA 三宮会館を囲む三角のもう一つの頂点となる東遊園地を三箇所目の植樹場所に計画しています。東遊園地リニューアル工事の後、次期において行うことになります。

<BF 基金：使用済み郵便切手回収>

国際役員や BF 代表が公式行事に参加する旅費などの資金源として、全ワイズメンの参加によって集められる資金の一部を使用済み切手回収活動によって賄っています。



コロナ禍でこの活動も難しいようでしたが、国際・交流事業主査の取りまとめにより今年度も集められた分は西日本区へ送付されました。

<広報>

- ・部長通信 1月号（1月1日会長宛発信）、2月号（1月30日発信）、3月号（3月1日発信）、4月号（3月30日発信）、5月号（5月1日発信）、6月号（5月27日発信）
- ・六甲部ホームページ更新
- ・六甲部部報<夏号>発信（2022年6月30日）

<六甲部ワイズ会長・総主事懇談会 ～3月10日（木）開催～>

<議事内容>

- ① 神戸 YMCA 2021 年度全体報告
- ② 2022 年度支援依頼について～パートナーシップ委員会での協議を受けて～
年間行事予定と支援依頼が示された
『行事や取り組みに対して、支援、協働をお願いしたい』
 - ・協働とはどういうことなのか、その意味の共通理解を図る必要がある。
 - ・ワイズと YMCA との協働を進める場合、協働という本来の意味から企画段階から共にすることが必要で、プロセスも分かち合い、一緒に働く場を作っていきたい。
 - ・YMCA とワイズの関わり度合いは、全て同じという訳でなく、それぞれのプログラムに応じて変えてもいいのではないか。
 - ・絵本配布事業と「神戸青年」への寄稿の依頼・・・六甲部として検討
参考) 東日本区メネット委員会実施の絵本配布事業
『子どもたちに絵本を贈りましょう』プロジェクト
- ③ 各クラブ報告

<2021-22/2022-23 ワイズメンズクラブ六甲部キャビネット引継ぎ会>

4月25日(月)、神戸YMCAにて、今期と次期の部キャビネットが引き継ぎ会を行いました。今期の部長、書記、会計が、それぞれに実施したことを引き継ぎ、評議会で課題として次期に引き継ぐことも確認しました。部則の改定など今期評議会で提案された意見について次期キャビネットによって検討されます。また、会計に関しては、振り込みに必要な手数料の予算化、取引金融機関について、部長・役員活動費としての必要経費、主査活動費・研修費が使われていないこと(活動の推奨)以上が話し合われました。

<六甲部から神戸YMCAへの寄付金に対するお礼状>



2022年 4月 5日

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区六甲部 様

公益財団法人神戸YMCA
理事長 中道 基夫
総主事 井上 真二

寄附ご協力感謝

拝啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は、YMCAの諸活動にご理解とお支えをいただき心から感謝申し上げます。

このたびはYMCAへの寄附として200,000円をいただきありがとうございました。

神戸YMCAは、すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育て、共に生きる社会の実現に向けて、多くの会員、ボランティアの皆様とともに、取り組みをすすめてまいります。今後とも、いっそうのご協力とお支えを賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

敬具

六甲部 皆様
この度のご支援と事務に
副出しありがとうございます。
総主事 井上 真二

いつも大変お支えいただき
誠にありがとうございます。
大変心強く感じております。
本部長 松田 蓮子

公益財団法人 神戸YMCA

〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加藤町2丁目7番11号 2-7-11, Kawo-cho, Chuo-ku, Kobe, Hyogo 650-0001 JAPAN
TEL:0782419201 FAX:0782419479

六甲部から、ウクライナ支援として100,000円を拠出いたしましたが、国際では部としての登録がないとのことで、各クラブ12,500円とし、各クラブからの支援金とあわせて登録されましたこと、お知らせいたします。ただいま、六甲部全体としては、270,000円の支援がなされています。(2022年3月末現在)

各事業主査からの報告

<Yサ・ユース事業>

2021～2022 の感想

Yサ・ユース事業主査 若林成幸(宝塚クラブ)



コロナ禍、自粛による感染予防の徹底が叫ばれ、全ての公的・私的な催しは我慢のならない制約のもとに置かれ不自由な時期を過ごしました。YMCAも留学生の入国が止まり、青少年向きのキャンプ等はじめ本来の活動がほとんど全てでストップしてしまい、経営的にもまた、職員のモラルを維持することにも重大な危機を迎えることになりました。今なお不安な日々を過ごし、4回目のワクチン接種をしても未だ終息宣言は期待できそうもありません。

このような一年、Yサ・ユース主査としてYMCAとワイズの連携の姿を追ってきましたが、何も得るところがなかった、というのが正直な告白です。一口に「連携」といっても「協力」「協働」「支援」などの側面があり、「誰が」「何のため」「どのように」と考えるとYMCAとワイズが「共有する命題」をしっかり捉まえておくことが最も大事だ、と思うようになりました。そこで考えついたのが「風呂敷理論」でした。

風呂敷の4隅、A点にYMCA公益事業が、B点に学校事業が、C点に社会福祉事業が位置し、D点にワイズ活動があります。このABCDからなる平面がYとYsの活動領域となります。それぞれは周辺地域に対して専門知識やノウハウを駆使し、それぞれの目標・理想を追求しています。ワイズの場合は、月々の例会や地域貢献活動等がそれに該当するでしょう。これらの活動は総称して「YMCA運動」と捉まえても良いでしょう。平面に対角線ACとBDを引き、その交点Xを持ち上げると四面体ができあがり、その容量が大きくなるほどYMCA運動が豊かになってると言えるでしょう。果たして私たちの活動のベクトルは同じ方向を向いているのでしょうか。一つの方向に限定する必要はありませんが、それぞれは異なった領域で、それぞれの個性に応じて働きながら、その大きな流れが今日の社会における貢献や問題解決に迫っているかどうかということをお問いたださねばなりません。

その問は「YMCA中期計画」に記されています。その問に答えるためには相当のパワーが必要であり、カオス的な現代社会の中であって、大変な時代になったという思いしかありません。SDGs持続可能な地球を回復するための目標を定めていますが、私たちの運動は、この17項目の中のどの項目に合致しているのでしょうか。

この一年、このような思いですごしてきました。この思いを背負って次期部長に向かいます。皆様のご協力とご指導をよろしくお願いします。

<地域奉仕・環境事業>

未来に引き継ぐ地域奉仕・環境事業

地域奉仕・環境事業主査 山根 泉（神戸クラブ）



あつという間の一年間でした。皆様のお支えにより青色吐息ながらも走り抜けることができ感謝いたします。地域奉仕やYMCA サービスにはメンバーが介在して人が集い交わる事業が多くありワイズの奉仕活動の花形とも言えます。しかし、コロナ禍の影響は並大抵ではありませんでした。事業委員会もハイブリッド形式で2回開催出来ましたが、「もしコロナがそのまま終息したら…」とタラレバ的な話になりがちで中々ギアが上がりませんでした。

そんな折、大野部長から「コロナでも出来るやり方も色々考えてみてはどうですか？」とアドバイスいただいたことを思い出しギアチェンジができました。結果的には、使用済み ROSTER のリサイクル、ワイズ 100 周年記念植樹、第5回きらりと輝くアート展 Web 開催が実施できました。いずれもが、三密状態や濃厚接触なくして感染予防を徹底したコロナ禍に相応しい事業となりました。

さらに、嬉しいことはこのいずれの事業も、一度限りではなく継続性があり、植樹についてはこの先何十年と私たちの心を和ませてくれることとなります。

計画通り出来なかったことも沢山あったこの一年でしたが、未来に引き継ぐ事業に少しばかり関わらせていただき充実した一年となりました、ありがとうございました。

<国際・交流事業>

国際・交流事業主査 安行 暁子（さんだクラブ）

今年度は交流事業として予定していた「ローンポール大会」「六甲部合同親睦会」は共にコロナウィルスの影響下により中止せざるを得なくなり、使用済み切手の回収のみの実施となりました。その他、オンラインでの各クラブ交流事業は行われたとクラブより報告を受けております。

<EMC 事業>

EMC 事業主査 濱 浩一（西宮クラブ）



各クラブ EMC 担当の皆様、EMC 調査集計表の提出にこの1年間ご協力賜り本当にありがとうございました。

主査主題を『まず足元を見つめ直すことから始めよう!』とし、各クラブの EMC 事業計画を作成して頂き、足元を見つめ直した結果、高齢化や知名度の低さなど各クラブが同じような問題を抱えている状況が浮き彫りになりましたが、2回開催されリモート参加しました西日本区 EMC 懇談会でも EMC の問題は同じ悩みが多いと感じました。山口雅也西日本区 EMC 事業主任依頼の「上半期の振り返りと下半期への取り組みシート」も作成の上、EMC 活動

に前向きに取り組んでいただきました。ただ、EMC シンポジウムをコロナ禍でもリアル開催を目指した結果、残念ながら開催できずに、皆様と対面でゆっくりと話し合える機会を持てませんでした。

今期は退会 15 名（さんだクラブ解散を含む）、新入会は 2 名で、この 2 名の会員とともに楽しんで活動できる雰囲気づくりとやりがいのある活動を目指し、六甲部が活性化できればと思っております。そして若い人の入会を心待ちにしています。

<メネット事業>

メネット事業主査 上野恭男（芦屋クラブ）



メネット主査をお受けしてこの 1 年、これといった活動が出来ませんでした。コロナによる第 6 波のオミクロンで動くこともできず、申し訳なく思っています。西日本区として最後のメネット主任、竹内芳江ワイズが掲げる「ヘッドネーション」事業は、六甲部 8 クラブのメネット担当にお願いしましたが、成果を上げることはできませんでした。また、継続的事业である、ベルマークを集め YMCA に寄金する事業は、YMCA に設置されたインクジェットプリンター収集箱への使用済みインクカートリッジ回収に注力、重点的に集めました。各種学び、講習会は集会が出来ませんでした。メネット事業としての活動をする最後の年度であることを踏まえて残念でなりません。来期はメネット委員会として新たな活躍をされますことをお祈りいたします。

<広報委員会>

広報委員長 杉本隆人（神戸学園都市クラブ）



デジタル委員会と連携し、HP(ホームページ)活用を促進。リモート委員会を 5 回ほど重ね、いかに連携していくのかを協議し、リモート例会開催の促進と、六甲部情報交換の場としてホームページを活用していくことを確認し、実行しました。また、六甲部の各クラブ例会案内を後期より復帰し、六甲部会長グループメールを活用し、案内すると同時に六甲部 HP に掲載することを実行して参りました。各クラブ会長及び担当者には、大変ご協力いただき感謝申し上げます。この情報を共有し、コロナ禍での例会開催が少しでも活性化するよう努めて参りました。今後の活動予定（引継ぎ事項）として、デジタル委員会との連携強化し、継続的な活動をしていきます。例会案内を定例化できるようにしていきます。ホームページの活用とリモートでの例会ができるようにデジタル委員会をサポートしてくれるように技術的なことを学べるような機会を多く作り、各クラブでの活用を促進していくので是非、ご活用頂きますようお願いいたします。

各クラブ会長からの報告

<神戸クラブ>

会長 井出 浩



年度当初に掲げた基本方針を踏まえてこの一年を総括するなら、殆ど実践できなかったと言うしかありません。方針としてあげた事柄は直接顔を合わせることで実り豊かになるものばかりであり、残念なことに対面での活動は実施困難となったこと、加えて例会は時間短縮で行ったことで、十分な活動にはなりません。その中で、後半の例会では、2月には、神戸いのちの電話研修委員の南部真理子さんからこども虐待のお話を、3月にはウィメンズネット神戸 WACCA の茂木美知子さんから DV にまつわる話を(写真参照)、4月には、関西学院大学人間福祉学部非常勤講師の服部紀代さんから学校の保健室から見た子どもたちのお話をお聞きすることができ、子どもたちを取り巻く課題の一端を学ぶ事は出来たと思います。3月以降は会場に多くの参加者を得て例会を開催できたことは、喜ばしいことでした。また、そうした機会が持てたことで、あらためて、顔を合わせることが出来る場の大切さを感じました。



そうした中、3月3日に城純一ワイズ、4月10日に河合睦文ワイズ、そして6月23日には、奈良傳賞を受賞された大塚章信ワイズとお三人の先輩が天に召されました。神戸ワイズの伝統を支えて来られた先輩を失ったことは寂しい思いで一杯です。コロナ禍後は、with corona の生活となる、と言われる。クラブの活動にも一工夫がひつようとなるのでしょうか。多くの課題を残した一年でした。

<西宮クラブ>

久しぶり 職員さんとの交流会

会長 廣瀬一雄



日時：2022年4月15日(金) 19:00～21:00

会場：ホテル竹園芦屋

ドライバー：廣瀬一雄メン、藤田良祐メン

4月例会は西宮 YMCA 職員との懇親会をホテル竹園で行うことが出来ました。コロナの影響で2年間、職員を例会に招待することが出来ませんでしたので、今回は2年分5名の職員を例会へ招待しました。

RAINBOW TREE の皆さんによる音楽演奏も素晴らしく、お陰で武田建氏、武田寿子氏もご夫婦で例会へご出席くださいました。

参加した職員からは、自己紹介や担当している業務紹介などがありました。初めてワイズメンズクラブの例会に参加し緊張している面持ちの者もいましたが、学童保育の運営に加えて新たにスタートした「放課後キッズ」の事業紹介もあり、西宮 YMCA で行っている事業と人を知る機会になりました。



<神戸西クラブ>



コロナウィルス禍2年目のクラブ活動を完結して（社会貢献の視点から）

会長 大田 厚三郎

私が会長として責任を負った会長期は、コロナウィルス緊急事態措置・まん延防止等重点措置が繰り返し発布された中での活動を余儀なくされた年でありました。2021年7月から、2022年6月まで、12回例会・事務例会を予定しておりましたが、結果的に例会が休会になりましたのは、8月の「納涼例会」1回だけということになり、年間11回の例会が予定どおり対面式で開催できたという好結果になりました。例会会場も「新長田・細田地域福祉センター」を確保でき、大変恵まれた1年でありました。活動方針・活動計画の中で、一番重要と考えていたことは、「新長田地区での社会貢献に取り組む」ということでした。一つはWACCA（シングルマザーと子どもたちの支援団体）との交流も4年目を迎えて、合同クリスマス会もスムーズに実施することができました。今後もWACCAと共同行事を積み重ねていきたいと思えます。



二つ目は、今回は実現できなかったことですが、神戸市立たかとり児童館における「食を通じたつながり支援活動」でした。水野宏明主事から説明を受け、地域にあるワイズメンズクラブとして、ぜひ取り組みたいという思いが、湧きあがってきました。現在の格差社会で置き去りにされている弱い立場の方々に寄り添っていけること、しかも抽象的なことではなく、食料品を配布するというリアルな活動が、私たちの求めている地域貢献に直結することが魅力でした。今回は、残念ながら実現しなかったのですが、たとえ神戸市行政からの支援がなくても取り組みたい課題です。

三つ目は、5月例会で「環境省登録環境カウンセラー・自然公園指導員の橋本敏明氏」から、「花、緑、チョウチョ」の講話を聴いたことです。橋本氏は自分の家の庭にチョウチョの好きな花木を植えて、チョウチョを呼び込み、産卵させ、ふ化し、自然界のチョウチョを増やす運動をされています。橋本氏の運動に共鳴する近隣の住民が、庭や花壇に花木を植えています。チョウチョの飛来が増えています。そしてチョウチョが根付いています。日本国内には約400種のチョウチョが生存しており、そのうちの150種が我が兵庫県・六甲山系周辺に生存しているそうです。この運動も一人一人の足元から自然環境の保護に関わることができるという夢と現実の実現をリアルに体験できる素晴らしい活動だと思いました。ワイズが取り組む価値のある運動だと私は感じています。

以上、この1年間の活動はもっと多彩な報告が出来るのですが、「社会貢献」という視点から、報告させていただきます。

<神戸ポートクラブ>

会長 宮内伸浩



下期、コロナ下での活動目途が立ち始め、昨季まで自粛を余儀なくされたチャリティーコンサート、移動例会をしっかりと企画、準備することができました。チャリティーコンサートでは赤字予算での決行でしたが、皆様のお心遣いでほぼトントンに抑えることができました。出演いただいた方々に恵まれ、コンサートの内容は十分にご満足いただけたものと自負しております。コンサート終了後、新メンバー北島伸三ワイズの入会式も執り行うことができました。移動例会は、幾度か計画したも

のの見送らざるを得なかった近江八幡ヴォーリズ建築見学をついに実現することができました。長距離の移動にかかわらずゲストの参加も得ました。好天にも恵まれ、また念願だっただけに、参加メンバーからは一様に大満足の声が上がっていました。通年、会長のわがままで、例会卓話をメンバーの話としましたが、それなりに好評をいただいたようで安堵しています。次年度はゲストをお迎えする形に戻りますので、ビジターとしてお越しくださいませ。



<宝塚クラブ>

会長 福田宏子



2022年の新年を迎えると同時に、従来の例会会場が修復のため変更せざるを余儀なくされた。更にコロナ禍という状態下、様々な点を考慮した結果、宝塚教会へと会場を移した。例会はリアルとハイブリッドを駆使して挙行、1月例会の講師に宝塚教会の浦上結慈牧師より「かくれキリスタン」のお話を伺った。主に『日本二十六聖人：殉教の出来事を中心に』：安土、桃山時代、二十六聖人の主だった人々が、大坂で捕らえられ、長崎までの800kmを引かれ、西坂で処刑された。そこには彫刻家：船越保武氏の26聖人殉教の像が建立され、氏の芸術家の心からなる鎮魂の祈りが、我々の胸に迫ってくる。現代のような宗教の自由を我々は感謝すべきでしょう・・・とのことで胸を打たれた。

2月例会は「ピンクシャツデー」の行事：神戸YMCAより生田川河畔までのゴミ拾いと河畔でのY'S100周年記念行事である第2回目の染井吉野の記念植樹式を挙行。午後、管理栄養士の秋澤マリー氏による「日本が一番の長寿国になれた理由」と題して、いかに栄養のバランスがとれた食事が大切かを学んだ。

3月例会：工学博士・一級建築士：田村博美氏より「宝塚の都市つくりと西谷の役割」について、宝塚市の地形より生じる、様々な問題：西谷地域の開発の意義等を話された。我クラブも西谷地域での活動

を模索中：真菰の苗の田植えに参加、真菰茶をファンドに採用した。また5月には綿の種まきを実施、ジビエ料理に舌鼓、大自然の新緑が生み出すエネルギーを実感、綿の木の成長を願った。

4月例会：「和菓子の心」と題して、創業1801年虎屋吉末八代目当主：萬田悠介氏に伝統的な和菓子の意味、どのように季節感溢れる繊細な和菓子が生まれるかを、参加者全員童心に戻って感激のうちに楽しんだ。5月例会：さんだクラブの竹内一夫氏より「医療ソーシャルワーカーとしての役割」について、ご自身の経験より患者さんに寄り添う様々な種類の「ソーシャルワーカー」の必要性、重大さ、資格化を述べられた。



6月例会：会場は従来の宝塚西公民館へ戻り、「一年間の各事業の振り返り」の機会となった。ある意味では、コロナ禍で振り回された1年であったが、様々な現代のICTをも駆使して、全員の協力で共に新たな発見、経験、学び、収穫があり、ウクライナ支援募金も微力ながら賛同できたのは、大きな喜びと同時に感謝である。

<神戸学園都市クラブ>

会長 田辺征一



2021年中にはコロナも終息し、その後は、「楽しく笑い合えるクラブを！」と願い、年間主題「“アンタアホヤ”の精神で明るく楽しいワイズダムを！」を掲げました。しかし、コロナは一向に弱まる気配がありません。この2年間、クラブの目玉である公開例会や恒例行事の“もちつき”ができていません。また、ジャガイモの価格高騰を受けて去年は販売を見送るなど、試練の年でした。

そんな中、主に次の3つの奉仕活動を始めました。

- ・7月からは学園都市地区自治会主催の「クリーン作戦」に有志で参加し、地元の人々にYMCA・ワイズメンの存在をアピールしている。
- ・神戸YMCA学院留学生支援の一環として生活必需品（トイレトペーパー、ティッシュペーパー等）の支援を行い、6月からは新入生との交流も楽しみ。
- ・神戸市が困窮世帯援助を目的に行っている生活サポート物品の仕分け作業に有志が参加している。



ワイズ活動は今や完全にインターネットなしには成り立たなくなっているが、クラブは高齢化の上にPCを扱う者が限られており、リモートによる交流や情報配信が難しい。今後、これにどう対応するかが大切です。

留学生支援活動（神戸YMCAにて）

<さんだクラブ>

会長 安行英文

さんだクラブのトピックス

6月8日 水曜日 6月第一例会、最終例会を終える。

6月22日 水曜日 黒豆枝豆ファンドの苗植えを行う。

以上のようなプログラムでした。



さんだクラブ解散のお知らせ

拝啓 時下ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。
皆様には創立以来格段のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さんだワイズメンズクラブは、2022年6月30日をもちまして、諸般の事情により解散させていただくこととなりました。

思い返せば、西宮・宝塚両クラブをスポンサーとして1993年10月31日チャーター以来、YMCAおよび地域支援に取り組んでまいりましたが、このたび解散する運びとなりました。これまでに皆様から賜りましたご支援に心から感謝申し上げるとともに、心からの御礼を申し上げます。

思い返せば、新旧の街づくりのための人びとの交流の拠点をと三田にYMCAブランチを開設したのをきっかけに、その中心となる心あるメンバーが集い、さんだワイズメンズクラブが産声を上げ、早や29年が経ちました。この間のYMCAが地域にもたらしたキャンプやサッカー、野外活動プログラム、国際協力プログラム、人権や環境に関する啓発活動プログラムを支援するワイズとしてのさんだクラブの存在感は計り知れないほどの影響をもたらしたのではないかと自負するものです。

その中で、さんだクラブは特に、リーダーのための支援を惜しまず、良きリーダー育成への一翼を担ってきたのではないかと考えています。地域のためには、バレンタインコンサートを長年にわたり開催し、地域交流と国際協力、社会福祉への協力を盛り込み、人々に少しでも、音楽を通じて心を慰めていただく拠り所として活動を続けてきました。また、福祉への支援として市内「かるがも園」への夏祭り支援やその他行事への協力で、子どもたちへの支援を続けてまいりました。

どれもこれも、素晴らしいメンバーがいたからこそそのYMCA、地域への貢献が継続して行えたことだと感謝の念でいっぱいです。

この度、クラブ解散のお知らせを皆様にしなければならないのは、痛惜の思いではありますが、神戸YMCA、西日本区、六甲部、そして六甲部各クラブの皆様には大変お世話になったことを紙面を通じてではありますが、改めて御礼を申し上げます。

皆様のますますのご活躍を祈念申し上げます、最後の会長の挨拶とさせていただきます。

2022年6月2日

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

六甲部 さんだクラブ

会長 安行英文

さんだクラブでは、2021年度上半期後半から2022年度まで、数回、クラブ協議会において今後についての話し合いが持たれました。その結果、高齢化による諸問題と物理的な活動の限界から、クラブの解散は避けられないという結論に達し、大変残念なことです。5月12日に西日本区理事に解散届を提出されました。しかし、神戸YMCAを支援したい、これまでの活動はできる限り続けていきたい、元クラブメンバーの交流は今後も継続したいという気持ちは共有されています。今まで厳しいクラブ運営の中でも、工夫して力を合わせて活動してこられたさんだクラブの皆様には敬意を表し、状況が変わり、またクラブが復活されることを切に願いつつ、皆様にご報告させていただきます。

六甲部部長 大野智恵

<芦屋クラブ>

会長 大岩雅典



今年度もコロナ禍で何もできない年でした。2年続けて前例のない事態となり数えるほどしかご報告ができません。下半期のトピックスは昨年度2020～2021年度入会の山口光一ワイズのご結婚祝福の会を芦屋ワイズ第一例会で行えたことです。暗い話題に光を指す本当に嬉しい出来事でした。それから、2021～2022年度増田智子ワイズが私たち芦屋クラブの仲間になっていただけましたこと。六甲部の方々にもたくさんお祝いのお言葉いただきました。ありがとうございました。

総括ですが、献金については、コロナで活動が無かったおかげで余剰活動費を献金に回すことができ、それなりの成果を上げることができました。本来なら事業で汗を流して献金集めをし、そのひと時の交流も楽しめる充実したワイズ活動となりますが、今後はコロナも回復傾向で例年通りの、楽しいワイズ活動ができることを期待したいと思います。



六甲部各事業に対する総評

監事 柏原佳子（芦屋クラブ）



2021年度の六甲部は、新型コロナウイルス {オミクロン} により、活発な交流が出来ない中、ワイズ100周年記念事業として植樹が行われました。しあわせの村、神戸市の公園、YMCA などでの記念植樹は心にのこる事業でした。次期六甲部事業へ引き継がれている事も素晴らしいと思います。

また、2021年度の各事業主査、各クラブ会長は、思い通りの活動が出来ず、心残りもおありかと拝察いたします。

そのなかで、大野智恵六甲部部长による六甲部部长通信は、毎月の発行日を守り、西日本区役員会、六甲部各事業、各クラブの活動などを丁寧に伝えて下さいました。

対面での交流が出来ない事から活性化したりリモートによる2回の評議会は、精一杯の今期六甲部キャビネットの活動と受け止め、これ以上は出来ない成果をあげられたと思います。デジタル委員会も活発に行なわれていたように思います。

六甲部部会は臨水亭での開催が間際まで迫りながらも、中止を余儀なくされ、準備にかけられた時間と想いに対して胸が傷みました。

きらりと輝くアート展は地域奉仕・環境事業に引き継がれ、ネットでの開催となりましたが、関係者のご努力に感謝いたします。

6月11日（土）開催の岡山での西日本区大会では、大野智恵部長が六甲部各クラブの活動を明確に分かりやすく報告されたことを誇らしく拝見致しました。

改めて対面での交流の素晴らしさを感じた集いでした。出来なかったではなく出来る事を懸命に実現された六甲部キャビネットの皆さまの献身は、今後も六甲部に引き継がれていくことを願います。お疲れ様でございました。

1年の歩みを終えて

書記 水野雄二（神戸ポートクラブ）



神戸ポートの事務例会で六甲部部长輩出の議案があつて協議をする中で、大野智恵さんが部長を引き受けてくださった勇氣に触れて、書記を引き受けることにしました。たいしたことはできないけれども、部長をお支えすることはできるかと準備会から1年余、案の定、たいしたことはできませんでしたが、何とか書記の役割を果たすことができたかと思つて安堵しています。思えば、コロナ禍が継続し、部長の思いを果たすことができなかったこともありました

が、それでも次善の策はなんとか達成することができたのではないのでしょうか。それには、部長のご努力もさることながら、事務局員として陰ひなたで支えられた大野勉さんや他のキャビネットのお働きもありました。時代は難しい局面を迎え、ワイズメンズクラブの運動や活動を活性化させるにはいくつかの障壁がありますが、それでも今期六甲部を推進してきた各事業主査、各クラブ会長の皆様が大きな力を発揮され、良き働きがなされたのではないかと思います。私もその一員として、楽しませていただいたことに感謝いたします。いくつかのご迷惑とご不快を与えてしまったかとは思いますが、大野智恵部長の“三方よし”の“笑顔”に免じてご容赦くださいますように。

2021-2022 年度を振り返って

会計 山田滋己 (神戸ポートクラブ)

2021-2022 年度 六甲部の活動にご支援、ご協力を頂き、キャビネットの一員として感謝申し上げます。会計は部の財政に関する事項を取り扱う役割ですが、主には部構成員の合意を経て部長の指示により、提供頂いた部費から活動資金を支出する事でした。新型コロナで余儀なく部会をはじめ活動の縮小や延期となりました一方で、Y's100 周年を祝う事業として 2 か所(しあわせの村、新生田川)の記念植樹が出来たことは、今後へ繋がる成果になったと考えます。地域奉仕や国際交流等、ワイズ運動を広げる事業に適切な資金を如何に活用するか、実務含めて勉強させて頂いた 1 年でした。次期は宝塚クラブ 長尾ワイズへバトンタッチします。次期もよろしくお願いいたします。



叶えられたこととできなかったこと

事務局 大野 勉 (神戸ポートクラブ)



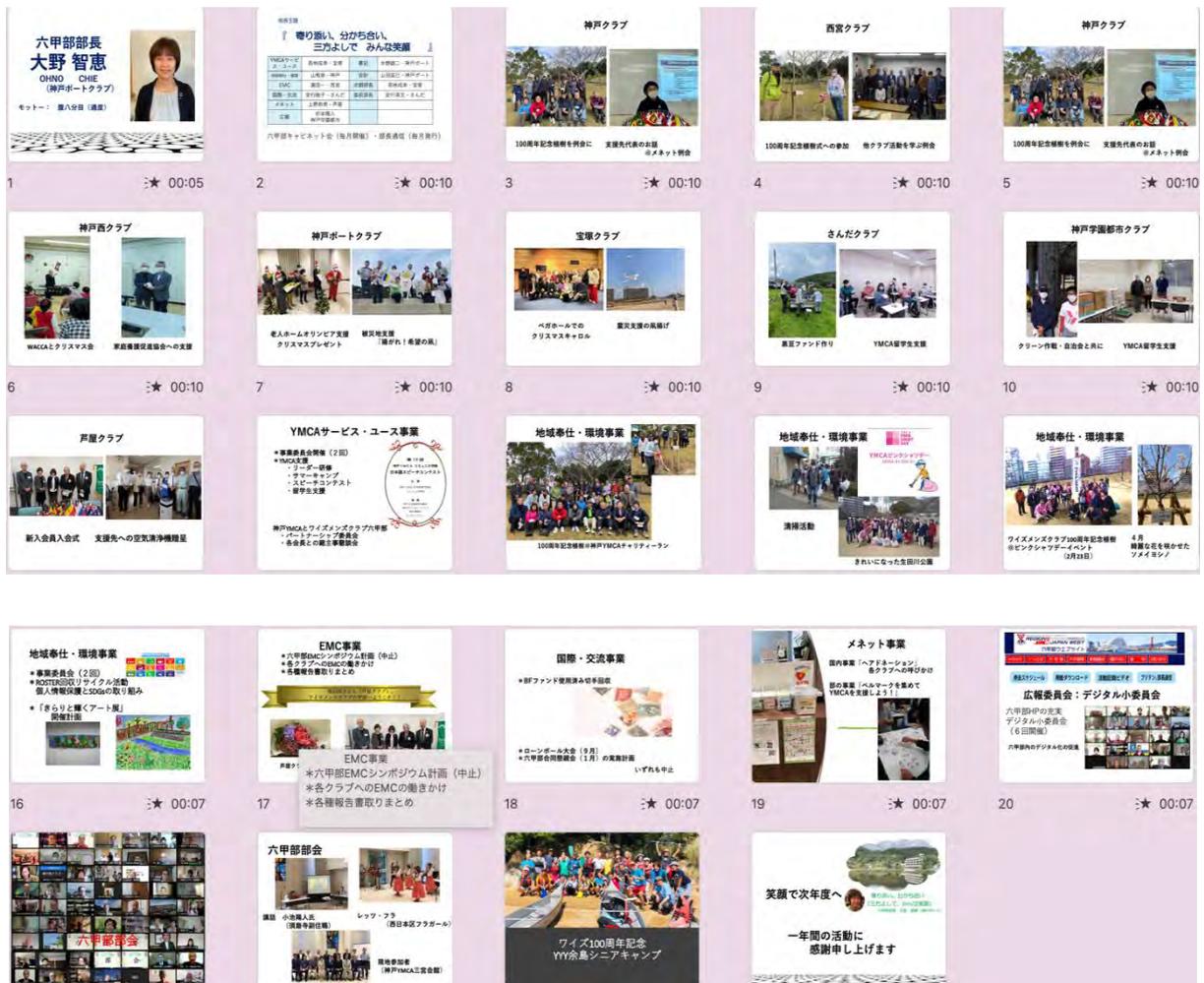
アイデア豊富の大野智恵さんですので、いろいろ相談を受けました。そのほとんどは実現していったのではないのでしょうか。詳細は、毎月の部長通信や区大会での部長報告がありましたので、ここでは割愛します。事務局として大野ベンは、少しお手伝いできたかなと思います。パンデミックがなければ、AP (エリア会長) と DG (部長) として各部を訪問したかったのですが、それは叶わず残念でした。六甲部のみなさんとお会いする機会が少なかったですが、つながりは強化されたのではないかと思います。大野智恵部長、各クラブ会長、主査のみなさんご苦労様でした。そして、また次期もよろしくお願いいたします。

担当主事 松田道子 (神戸ポートクラブ)

今期、六甲部担当主事として、クラブの枠を越えて部の働きに交わるよい機会が与えられましたことを感謝申し上げます。活動において、各クラブの長が活かされつつ、大野智恵部長の主題のもと、事業主査、そして部キャビネットが企画運営し行われたそれぞれの事業に対する行動力の高さに感銘を受けました。行動力の源である目的や目標が明確であり、共有されているからこそ達成されていくプロセスを共に経験させていただきました。部の働きがあり、区の働きがあり、そして日本、世界へと広がっていく、日々のクラブでの活動と世界との繋がりを感じた機会でした。六甲部と神戸 YMCA との繋がりは、各クラブ、そして六甲部において、それぞれに複雑に繋がっているからこそ、その絆が強められていくことも体感した今期でした。コロナ禍において新しいことへの挑戦をともに努めさせていただいた一年、誠にありがとうございました。



西日本区大会での部長報告 <パワーポイントの写真です>



<編集後記>

長いコロナ禍が依然として続く中、2021-2022 年期の六甲部活動を実行してきました。六甲部の皆様には慣れないパソコンやスマホに向かい、デジタル情報やリモートによるコミュニケーションに苦闘された方もおられたのではないのでしょうか？ 部運営につきましても皆様にパソコンやスマホを通してのコミュニケーションに頼る傾向が続き、申し訳なく思っています。この部報もペーパーレスの時代でもあり、メールでの配信とホームページ掲載に留めさせていただきました。皆様の多大なご理解、ご協力とご支援に感謝いたします。

特に各クラブ会長の皆様には、評議会、六甲部部会をはじめ、日常的にご面倒をおかけしました。感謝します。

次期の六甲部、また各クラブの活動が、コロナウィルスの終息に向かって対面で活性化し、地域にあってワイズメンズクラブの存在が益々光り輝くような一年になりますように、と祈念し、次期も共に歩んでまいりましょう。

六甲部キャビネット